

互いの考えを関係付けて、討論をしよう

中心学習材 「豊かな言葉の使い手になるためには」(光村図書5年)

〈育てたい主となる能力〉

- ◎互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。(話・聞オ)
- ◎考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。(書ア)

〈単元を貫く言語活動〉

- ◎グループで討論をする。

1 子どもと単元について

子どもたちは、4年生での「話すこと・聞くこと」の学習として、「よりよい意見にまとめよう」では、社会者や参加者の役割をはっきりさせ、進行に沿って一つの意見にまとめる話し合いの学習を、5年生の「きいて、きいて、きいてみよう」では、話し手の意図をとらえてインタビューをし、それを報告する学習を行ってきた。また、「書くこと」の学習では、5年生の「次への一步～活動報告書」で、活動報告書の型を理解し、全体の構成を考えて書くことや、事実と感想、意見を区別し、文章に応じた文末表現や詳述、略述を用いて書く学習を行ってきた。これらの学習を通して、子ども達は目的に沿って話し合う力や自分の考えを効果的に伝える文章を書く力を高めてきている。日常においては、学級活動で意見をまとめる話し合い、帰りの会では話題に沿ったスピーチなど話すこと聞くことの活動に親しんだり、週末の条件作文等で書く活動にも親しんだりしている。

中心学習材「豊かな言葉の使い手になるためには」は、言葉の豊かさについて考えることを中心的な課題としている。「豊かな言葉の使い手」とはどんな人だと思ふか出し合い、自分の課題を決めて調べ、それを基に自分の考えを構築する。そして、調べたことを基にグループ討論をし、討論の仕方や内容について意見交流をする展開となっている。「討論」は、高学年になって初めて取り組む言語活動である。互いの考えを述べ合うことにより、考えの深まりや広がり、新たな考えの生産など、自分の考えを形成することに効果的である。また、言葉の「豊かさ」という子どもたちの言語生活に必要な話題について、深く考えることができる学習材である。

指導に当たっては、次の二つを大切にする。一つ目は、考えを関係付けて討論をする力を身に付けることである。そのために、考えを関係付ける観点を「自分の考え+同じ考え=より深い考え」「自分の考え+異なる考え=①どちらかの考え②組み合わせた考え③新しい考え」と示し、4～5人でのグループ討論を行う。また、第1回目は同じ考え、第2回目・3回目は異なる考えとグループの構成を変化させて討論を繰り返し、「関係付ける」という意識をもって討論をさせていく。二つ目は、意欲をもち見通しをもって計画的に話し合う力を身に付けることである。そのために、「豊かな言葉の使い手になるために自分たちができること」について、考えたことを学年に発信するという単元のゴールを設定し、討論の必然性を感じられる導入を工夫していく。互いの考えが関係付けられ考えが深まったり広がったりすることで、討論をすることのよさを実感できるようにしていきたい。

2 単元の指導目標

- 自分たちの言語生活に目を向け、自分の考えの根拠をより確かなものにするために、情報を集めて整理したり、自分の考えをもって話し合おうとしたりしている。【関心・意欲・態度】
- ◎自分たちの言語生活について、収集した知識や情報を基に自分の考えを構築し、互いの考えを関係付けたり立場や意図をはっきりさせたりしながら、計画的に話し合うことができる。【話すこと・聞くこと オ】
- ◎自分の課題について必要な資料を調べ、考えを構築するために情報を整理することができる。【書くこと ア】
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ)】

3 単元の評価規準

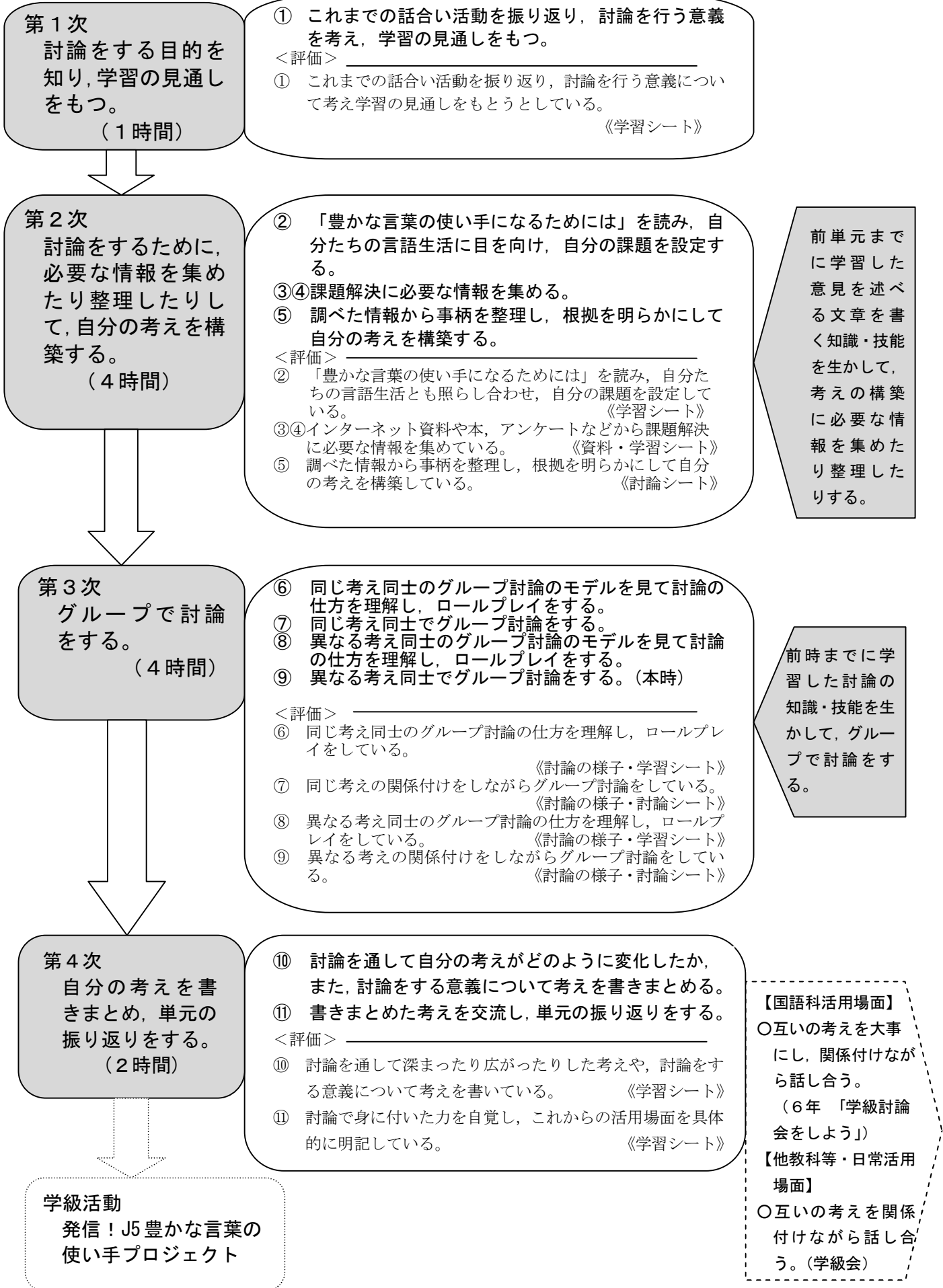
国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○自分たちの言語生活に目を向け、自分の考えの根拠をより確かなものにするために、情報を整理したり、自分の考えをもって話し合おうとしたりしている。	◎集めた情報から自分の考えを構築し、互いの考えを関係付けながら、計画的に話し合っている。	◎自分の考えを構築するために、話題に関する情報を集めたり整理したりしている。	○互いの考えを尊重するため、語感に気を付けたり、適切な言葉を使ったりして話し合っている。

4 学習指導計画（全11時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】



5 本時の指導

(1) ねらい

互いの考えを関係付ける観点に沿って、討論をすることができる。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習では、話題に沿って同じ考えを関係付けながらグループで討論することを学び、考えを深めたり広げたりして話し合う力を身に付けた。本時では、その知識・技能を生かし、異なる考えを関係付けながらグループで討論をし、考えを深めたり広げたりしていく。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。		○学習計画に沿って学習課題の確認を行い、単元における本時の位置付けを確かめる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 考えを関係付ける観点に沿って、討論をしよう。 </div>	
2 グループで討論をする。 (1) 話題と討論のポイントを確認する。 (2) 異なる考え同士で1回目のグループ討論をする。 (3) メンバーを変え、異なる考え同士で2回目のグループ討論をする。	○関係付ける観点 ・自分の考え+同じ考え ＝より深い考え ・自分の考え+異なる考え ①＝どちらかの考え ②＝組み合わせた考え ③＝新しい考え ○グループ討論の進め方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ自分の考えを述べる。 ・互いの考えについて質問したり、それに答えたりする。「～は・・・ということですか。」 ・互いの考えについて意見を交わす。「確かに～かもしれません。しかし～。」 「～は・・・と考える人もいます。と思いますが、わたしは～。」 「これまでの意見をまとめると～と言えます。」 「つまり、～は・・・ということですね。」 ・司会がどのような意見が出たかをまとめる。 </div>	○「豊かな言葉の使い手になるために自分たちができること」という話題でグループ討論してきたことや、考えを関係付ける討論をしてきて考えが深まってきたことを確認する。本時は異なる考えの関係付けをポイントにすることを確かめる。 ○異なる考え同士（4～5人）で1回目のグループ討論を行う。 ○それぞれの主張をまとめた用紙を準備し、互いの考えを理解した上で討論できるようにする。 ○1回目の討論終了後、深まったり広がったりした考えについてメモをする。 ○2回目の討論はメンバーを変え、異なる考え同士でグループ討論をする。その際、1回目の討論で深まったり広がったりしたことも述べるようにし、関係付けるよさを実感できるようにする。 ○2回目の討論終了後、1回目と同様に深まったり広がったりした考えについてメモをする。その後、グループ内で感想の交流をし、全体の交流につなげる。
3 グループや全体で感想の交流をする。 (1) グループで感想交流をする。 (2) 全体で感想交流をする。		○1回目の討論終了後、深まったり広がったりした考えについてメモをする。その後、グループ内で感想の交流をし、全体の交流につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈評価〉観点に沿って互いの考えを関係付け、討論をしている。 【討論の様子・討論シート】 </div>
4 学習を振り返る。 (1) 自己評価をする。 (2) 振り返りを交流する。	○振り返りの観点 ・考えの関係付け ・納得したことや新しい考えの発見 ・自分の考えの深まりや広がりやに役立った友達の考え	○三つの観点について記号や記述により評価し、身に付けた力を実感できるようにする。 ○全体で交流し、学びを共有する。
5 次時の学習内容を確認する。		○次時は、討論を通して自分の考えがどのように変わったのか、討論をしてよかったことについて書きまとめることを確かめ、学習の見通しをもたせる。